

The Management Data File	
経営者データファイル	
お名前	秋本 恭伸
生年月日	1939年9月15日 東京生まれ
身長	172cm
体重	85kg
平均睡眠時間	7時間
平均起床時間	午前7時
趣味	古い物の鑑賞
乗っている車	ピッツ
おすすめの本	いろいろな分野の本を出来るだけ多く
家族	妻、子供3人、孫4人
今までに訪れた国	10カ国
座右の銘	籠に乗る人、担ぐ人。そのまた草蛙(わらじ)を作る人。(つまり人にはそれぞれ役割がある)
購読雑誌	日経ビジネス
尊敬する人	自分以外の全ての人
好きな食べ物	日本食
嫌いな食べ物	なし

「この問題を解決したら口座を開いて(取引を開始して)あげるよ」と言われ、そういうお客さまを大切に、コツコツと仕事を広げました。

—— 先ほどは資格について触れましたが、若い人にどうやって資格をとらせ、技術者に育てているんですか？

秋本：入社したら、最初めっきの電解液を分析してもらいます。液を一定に保つことを学ぶため、もつとも基本的に、しかも難しい仕事です。これをまず身につけてもらう。それから劇毒物などの国家資格に挑戦させますが、1つをクリアしたら、さらにレベルの高い資格に挑戦……と、その繰り返しで資格と経験を重ねていくわけです。

—— 昔からある技術でありながら、先端技術にも深く関わる技術だということですが。

秋本：半導体や太陽電池などは、開発の重要な工程にめっき技術が絡んできます。また時々くるのが、大手メーカーの基礎研究所から、燃料電池やナノテクノロジーの開発に絡めて「こういうところをめっきの技術で何とかできないか」といった問い合わせですね。よく特注品を頼まれたりもします。特注品は、だいたい他社でもできる仕事なんです。そういう仕事は採算が合わないので嫌がられるんですね。でも、うちはやりませよ。技術屋は、採算だけで動くわけではありませぬから。

とか食べていけるだろうということ。それにみんなが応えてくれた結果として、有資格者が増え、技術力も向上してきたわけです。

資格には、技能士として2級、1級があり、そしてマイスター(高度熟練技能者)、名人(現代の名工)の順で称号のランクが上がります。さらに、黄綬褒章という叙勲に匹敵する栄誉も。これは技術に携わる人間の評価としては最高の栄誉で、「功績は現場に譲れ」のもとに、うちの場合、72歳の社員が受章する予定です(来春にも受章予定)。私たちの業界では、学会推薦で従業員が黄綬褒章を受けるのは、初めてのことで。

—— 御社の事業について教えてください。

秋本：アルミなどの、金属の表面処理です。めっきと言ったほうが分かりやすいかもしれませんね。

—— 優れた技術者が多いと聞いています。

秋本：会社が費用を負担して資格取得を奨励していますので、資格に挑戦する人が多いのです。それは、うちのよう小さな会社にきてくれた人に、何とか報いたいと考えたのがきっかけです。会社がおかしくなっても、また、いつか故郷に帰ることになっても、資格があれば社員は何

若い人は、ちよつと年上の先輩が資格を取ると、「次は自分の番だな」と思ひたいですよ。それで教え合おう。1級になると実技がありますので、年配者の出番、マイスターがやってみせると、その速さと正確さに若手はみんな驚きますね。いい手本、いい先生と同じ職場にいるわけですから、若い人は恵まれていると思います。

—— そうやって技術が伝承されていくわけですね。

秋本：そう。日本のモノづくりの根本にあるのは、感性とこだわりです。例えば「雨」を表現する言葉が日本語には20以上もある。この感性をモノづくりに生かせたら、世界中どこにも真似できない、付加価値の高いモノづくりが実現すると思うのです。

だから若い人には、失敗するまでやらせることがあります。後始末が大変ですが、とにかくやらせる。そして失敗したら、その原因を考えさせ、私たちも一緒に考えます。そうやって、勘どころをつかんでもらう。マニュアルで標準化したり機械を使ったりするよりも、人間が見て、触って、感じるのが大事なんです。ですから、うちでは、あえて大量生産はしません。量産工場ではできないことをやっているという誇りがありますから。

—— では、就職活動を控えた学生にメッセージを。

会社概要 電化皮膜工業株式会社

本社所在地 ● 東京都大田区矢口3-5-10(矢口工場)
創業 ● 1947(昭和22)年 資本金 ● 1,000万円
事業内容 ● 金属表面加工
従業員数 ● 37名(矢口工場のみ)
URL ● <http://www.dhk.co.jp/>
関連工場 ● 大和工場、深見工場、第二工場、電析工場

就職情報は
コチラ



Profile 秋本 恭伸 (あきもと やすのぶ)

1939年東京都生まれ。大学院1年のとき、兄の急死により急きょ入社。酒・タバコ・付き合いが苦手なため、とことん技術にこだわって営業を行い、それが現在の電化皮膜工業の技術力の基礎を築く結果となった。90年に矢口工場担当代表取締役就任。

あえて大量生産に背を向ける

「雨」を表現する言葉が、日本語には20以上もある。この感性をモノづくりに生かせたら、世界中どこにもないものができます。

電化皮膜工業代表取締役社長
秋本 恭伸
あきもと やすのぶ

めっきの電解液は、常に液を一定に保つことが要求される非常に高度な技術



—— 御社の事業について教えてください。

秋本：アルミなどの、金属の表面処理です。めっきと言ったほうが分かりやすいかもしれませんね。

—— 昔からある技術でありながら、先端技術にも深く関わる技術だということですが。

秋本：半導体や太陽電池などは、開発の重要な工程にめっき技術が絡んできます。また時々くるのが、大手メーカーの基礎研究所から、燃料電池やナノテクノロジーの開発に絡めて「こういうところをめっきの技術で何とかできないか」といった問い合わせですね。よく特注品を頼まれたりもします。特注品は、だいたい他社でもできる仕事なんです。そういう仕事は採算が合わないので嫌がられるんですね。でも、うちはやりませよ。技術屋は、採算だけで動くわけではありませぬから。

—— 御社の事業について教えてください。

秋本：アルミなどの、金属の表面処理です。めっきと言ったほうが分かりやすいかもしれませんね。

—— 御社の事業について教えてください。

秋本：アルミなどの、金属の表面処理です。めっきと言ったほうが分かりやすいかもしれませんね。

—— 御社の事業について教えてください。

秋本：アルミなどの、金属の表面処理です。めっきと言ったほうが分かりやすいかもしれませんね。